



ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
高崎染料植物園	027(328)6808	群馬県高崎市寺尾町2302の11	9時～16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	収蔵品展「草木染の美 夏から秋へ」 ▼7月22日～10月31日 「夏から秋へ」というテーマに沿って、季節を表した配色や、季節を感じられるモチーフが表現された草木染の展示、染の色目からは「霞手紅染」という名のついた色の組み合わせを紹介。また「紫根絞赤子着」、「黄丹の御裾を召した立ち籠」が今回初めて展示される。また、絹織糸と金駒織で織、紬、紬などの秋の植物の図案が表現され、地色の萌葱色や刺繍糸は藍と黄色染料の重ね染め、縞の縞などの刺繍糸は紅花染によるものと思われ、身分の高い女性に仕立てた女官の着物を推測される「萌葱色公家着物」も初出品となる
遠山記念館	049(297)0007	埼玉県比企郡川島町白井沼675	10時～16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	織の世界に遊ぶ心—小林桂子の布創り— ▼10月9日～11月28日 —小林桂子、1975年から1981年にかけて米国カリフォルニア州パークレーに在住する間に、テキスタイル作家の創始者であるエド・ロスバックが提唱した「世界中にある歴史的、民族的な染織品に触発された創作」という思想に影響を受け、自ら過去の作り手による様々な手法を探究し、古からの技法に新たな命を吹き込んだ織物作品を生み出してきた。「織」の研究のために収集された資料は実に様々で、日本、中国、中近東、ヨーロッパ、アフリカ、中南米、東南アジアと地域的にも製作年代的にも幅があるに留まらず、種類も衣類を始め、織物工場の見本製、織作技術の道具、縫製、装飾品、民芸品等に及ぶ。その伝統的な技法や文様、作家の豊かな感性と遊び心によって創造された作品の中で、新たな魅力を発する姿を示す
ギャラリーかわいん	045(543)3577	横浜市港北区大倉山1の1104	11時～18時	会期中無休	風理工房展 ▼10月4日～9日 —組紐花結び、和服メイク、パッチワーク、織物など —染工房展 ▼10月25日～30日 —手織物など
そごう美術館	045(465)5571	横浜市西区高島2の18の1そごう横浜店	10時～20時(入館30分前、10月29日～17時)	会期中無休	海(こは)ぎのきもの ジャパニーズ・ウェディング—日本の婚礼衣裳— ▼10月16日～11月14日 —婚礼は、人生において最も華やかな通過儀礼と言える。洋の東西を問わず、婚礼の儀式には古くから結婚を祝福する衣装が用いられてきた。その中、新婦を美しく彩る婚礼衣裳や、婚儀に用いられる様々な器物、そしてその場を演出するめりめりたるものには、幸福を暗示する色や形、模様がいり込まれた。同展はこうしたことが、美しくも洗練された形で行われていた江戸時代(武家の婚礼/商人の婚礼)から近代初期(伝統の継承と革新/大正・昭和の婚礼衣裳など)にかけての女性の婚礼衣裳や婚礼のしぐらを紹介する
相模原市立博物館	042(750)8030	神奈川県相模原市中央区高根30の15	9時30分～17時	月曜休み(祝日の場合翌休)	ミニ展示「衣服を買う・作る・学ぶ」 ▼7月7日～11月2日 —開館した津久井郷土資料室が収蔵していた多くの資料の中から、商店の大売り出しのポスターやチラシ(買物)、洋服の型紙(自宅で作る)、家庭科授業ノート(作り方を学ぶ)など、昭和時代の「衣」に関する資料を展示。また第二次世界大戦から戦後にかけて、物資が統制されて配給制度のもとで衣料切符がないと買ひこぎできない時代もあり、そうした当時の様子をつかかわせる衣料切符も紹介
女子美術大学ミュージアム	042(778)6801	神奈川県相模原市南区麻溝台1900女子美術大学10号館1F	10時～17時(入館30分前)	日曜、祝日休み(10月25日開館)	女子美術大学コレクション展Part9 舞葉装束 ▼9月29日～11月6日 —舞葉の装束形態のひとつである舞葉、舞上装束の演劇による舞台芸術で用いられる華やかな装束は、多岐にわたる文化が豊富で時代の変遷による多様性を有している。約12000点ある「女子美術大学コレクション」の中から、鮮やかな色彩を残す貴重な舞葉装束のコレクションが一室に集まるはじめての企画展。特に近世の装束を中心に展示する
石川県立美術館	076(231)7580	金沢市出羽町2の1	9時30分～18時(入館30分前)	会期中無休	第68回日本伝統工芸展金沢展 ▼10月23日～11月3日 —昭和29年に創設された伝統工芸界最大規模の公募展で、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・踏工芸の7部門で構成。人間国宝の作品をはじめ、受賞作、地元在住作家の入選作品などを展示
駒根シルクミュージアム	0265(82)8381	長野県駒根市東伊那482	9時～17時(入館30分前)	水曜休み(祝日の場合は開館)	第14回現代手織りクラフト公开展 ▼10月21日～11月28日 —全国で独自の創作活動を行い、創作のプロ、および将来プロを目指す人たちが創作した、独自の現代手織りクラフトを公開。入賞入選作品を展示すると、自立の道を支援の場となることを目指して開催する展覧会。部門は、着物、反物、帯、タペストリー
須坂クラシック美術館	026(246)6474	長野県須坂市大字須坂17106	9時～17時(入館30分前)	木曜休み(祝日の場合開館)	上田紬とりんご染め～小岩井織工房展～ ▼9月13日～11月10日 —信州紬の中でも「三葉紬」とも呼ばれる丈夫が特徴の上田紬。古くから養蚕業が盛んだった地域で、生糸に選ばれない「薄絹」を再製し、裏織りや斜織りした糸で織られた、上田工芸所が誇る「小岩井織工房」は、伝統的な織や格々の上田紬のほかに、長野のりんご皮で染めた糸を使った「りんご染め」を制作している。上田紬の伝統と現代の技、さらにはりんごの品種によっても異なる色味から紡ぎだされる美しいコントラストを紹介する
松本民芸館	0263(33)1569	長野県松本市里山1313の1	9時～17時(入館30分前)	月曜(祝日の場合翌休)、12月29日～1月3日休み	「藍」染・織物展 ▼9月18日～2023年9月13日 —かつて日本人の生活に欠かせない色「藍」に焦点を絞り、染・織物や、無名の職人が作った庶民の普段着など、生活に潤いやゆめを感じる品々を展示
岐阜県博物館	0575(28)3111	岐阜県関市小屋名小洞1989	11月～3月＝9時30分～16時30分、4月～10月＝9時～16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	<マイミュージアムギャラリー> 染織のいろ—美濃友禰の世界—河村尚江染織展 ▼10月30日～12月5日 —美濃友禰は、織物の歴史ある美濃の地において女権技法に鮮やかな色彩を用いた独自の抽象表現を取り入れ立ち上げられた染色。今回は河村尚江が制作した美濃友禰による染色作品がもたらす様々な「いろ」を届け、また染色する絹素材の違いによる発色や風合いの差も紹介し、染色に用いる道具なども展示する
静岡市立芹沢鉦介美術館	054(282)5522	静岡県駿河区登呂5の10の5	9時～16時30分	月曜休み(祝日の場合翌休)	芹沢鉦介の日本 ▼10月9日～12月12日 —美濃時代に暮らした芹沢鉦介は、20代には流行を追うモダンボーイだったが、30代になって日本の美しさに心ひかれるようになり、やがて柳宗悦の主導した民藝運動に参加、自らも染色家として型染に没頭した。日本各地を旅し、自然や風景を日本伝統の型染で表現した芹沢。代表作150点を通して、懐かしさも新しい芹沢鉦介の日本を紹介する
名古屋市蓬左文庫	052(935)2173	名古屋市中区徳川町1001	10時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	尾張鉦介ものがたり ▼9月18日～11月7日 —将軍家をはじめとする名家から、織、御三家家頭の尾張徳川家の歴代藩主を陰で支えた女性たち。正室や側室、娘たちゆかりの品々を展示し、その生涯を紐解く
名古屋市政資料館	052(953)0051	名古屋市中区白壁103	9時30分～17時(最終日15時まで)	会期中無休	第25回手織工房(なごみ)展 ▼10月27日～10月31日 —草木や化学染料で糸を染め、一年をかけて制作した成果を発表する。着物、着尺、帯、ショール、マフラー、バッグなどを展示
三越名古屋栄店	052(252)1111	名古屋市中区栄305の1	10時～19時	会期中無休	第68回日本伝統工芸展名古屋展 ▼9月29日～10月4日 —昭和29年に創設された伝統工芸界最大規模の公募展で、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・踏工芸の7部門で構成。重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品をはじめ、受賞作、地元工芸作家の入選作品などを展示
名古屋博物館	052(853)2655	名古屋市長橋地区瑞穂通19の27の1	9時30分～17時(入館30分前)	会期中無休	テーマ展「宮脇綾子の布あつめ 藍染めへの想い」 ▼10月27日～11月21日 —創作アップリカ作家である宮脇綾子が、個性的な作品を作るうえで欠かせないのが、藍染めの布地や着物だった。宮脇綾子が各地を訪ねて集めた着物や布地を紹介する
豊田市民芸館	0565(45)4039	愛知県豊田市平戸町横町波苅86の100	9時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	豊田国際紙フォーラム『IAPMA展』 ▼9月7日～10月17日 —豊田で開催される国際紙フォーラムに合わせて、世界中から応募があった「紙」を主体としたアート作品のうち、IAPMA(国際手漉紙生産者・紙アーティスト協会)が選定した優秀作品を展示
ギャラリーterra(清滝テラ)	090(5655)4568	京都市右京区嵯峨清滝町11の2	11時～17時(最終日～16時)	会期中無休	村田啓子・石畑美津子・音産マリカ作品展 ▼9月25日～10月3日 —能登山の中よみ村で自給自足に近い暮らしを営む音産啓子と音産美津子が藍染や橋流染をする村田、ピースや古布で自然の生き物をジュエリーにする石畑、野々花を描く音産による3人展
京都市国際交流会館	075(752)1187	京都市左京区粟田口島屋町2の1	10時～18時	会期中無休	<和風別館> 新たな軌跡へ—王村 咏展 ▼10月9日～10月10日 —「アトリエ牧」を主宰する京都在住の染色作家が、染色50周年を越え、新たな出発として手書き染色によるきもの作品を展示
京都市京セラ美術館	075(771)4107	京都市左京区岡崎円勝寺町124	9時～17時(入館30分前)	月曜休み	コレクションとの対話:6つ部屋 ▼10月9日～12月5日 —ジャンルや時代を超えたスペシャリストが異なるアプローチでコレクションと「対話」し、作品にまつわる秘められた歴史や物語を引き出す展覧会。染織関係では、織維造形作家「ひなの」のこが、染織家・山根清華(1885～1981)が残した糸や古製の調査をもとに、そのユニークな作品制作について紹介する。また山根清華が所蔵していたシニール糸を用いた織り作品を制作。糸が結び二人の染織作家の交流によって「唯一無二」の展示空間が立ち上がる。
ギャラリー翔	075(724)8154	京都市左京区北山通下鴨中通東入6北側	11時～18時(最終日～17時)	月曜休み	第5回「Quilt Space M's」作品展 HAPPY HALLOWEEN ▼10月13日～17日 —タペストリー、バッグ、キルト作品など

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
川島織物文化館	075(741)4120	京都市左京区静海市原町265	10時～16時30分(入館30分前)	見学は要予約。土・日曜、祝日休み	守りたい贈るこころ「福を呼ぶ角紗(二)」 ▼4月26日～10月29日 贈り物やご挨拶の品を持参する際には角紗が用いられてきた。近年は目にする機会も少なくなってきたが、川島織物の角紗生産の全盛期には、多彩なモチーフ・色柄の角紗が使われていた。現在はあまり目にする事のないパターンや雰囲気のものもあり、デザインとしても興味深い角紗が多かった。初代・二代川島甚兵衛が研究のために収集した角紗をはじめ、大正御大典記念角紗や贈り手の思いが感じられる角紗などを約30点を紹介
ギャラリー 恵風	075(771)1011	京都市左京区九太町通東大路東入南側	12時～19時(最終日～18時)	会期中無休	未来へのイメージ ▼10月12日～17日 →未来への想いを、国、ジャンル、世代を超えたアーティストが様々な形で表現する。染織では、Wendy Carroll(テキスタイル)、Eva Li(刺繍)、平野喜久夫(総織)、井上由美(染色)が出品
ギャラリーキョウリ	075(341)1501	京都市下京区河原町通四条下4東側第245F	12時～19時(最終日～17時)	木曜休み	本間晴子展 ▼9月18日～10月3日 →染色作品 Time Maurizio, Wenche Gulbrandsen展 ▼10月9日～24日 →フルウェーのテキスタイル作家2人の作品展 福田孝子展 ▼10月30日～11月14日 →ファイバーワーク
京都紋の工芸館	075(221)4252	京都市中京区油小路通御池下4	9時～17時	8月2日、13～16日、10月1日、11月1日、25日～30日、12月1日休み	巨大絞り几帳 神奈川沖浪裏展 ▼7月1日～12月23日 →6枚の大きなシルク生地を使い、北富の神奈川沖浪裏をモチーフに絞り染めあげた巨大几帳11、25日～30日、12月1日休み また「番岳三十六景」を題材に、絞り染めの技術を駆使して制作した絞り額金46枚も同時展示
紳居 SOKYO ANNEX	080(9745)8452	京都市中京区一之船入町375SSC43F	13時～18時30分	日・月曜休み	草間結穂組展—80年代から2021年まで— ▼9月25日～10月23日(前期)、10月30日～11月27日(後期) →前期に1980年代から90年代の作品を、後期に2000年から2021年に至るまでの作品を展示し、ファイバーアートの黎明期から50年にかけてその可能性を切り拓いてきた草間の創作活動を振り返る
ギャラリーマロニエ	075(221)0117	京都市中京区河原町通四条上4塩屋町332	12時～19時(最終日～18時)	月曜休み	Seven Thread—Kyoto Seika University textile students show— ▼10月5日～10日 →京都精華大学テキスタイル専攻で、織・フェルトを中心に制作をする4年生、院生、講師による作品展 BLUE MOMENT 窪田泉TEXTILE EXHIBITION ▼10月12日～24日 →サイアノタイプを使った表現を展覧 結木健太郎個展 FIGURE AND GROUND ▼10月19日～24日 →サイアノタイプの技法と独自の防染技法を用いて制作した作品を展示
京都文化博物館	075(222)0888	京都市中京区高倉通三条上4東片町623の1	10時～19時30分(入館30分前) / キャンペーンは10時～18時(最終日～16時)	月曜休み(祝日の場合翌休)	創業200周年記念 フィンレイソフ展—フィンランドの暮らしに愛され続けたテキスタイル— ▼10月9日～22年1月10日 →Finlayson(フィンレイソフ)は裁具等のデザインや生産を手掛ける、北欧フィンランド最古のテキスタイルブランド。北欧の自然や植物、文化に着想を得たデザインは、200年以上の歴史を重んじて決して色褪せることがない、伝統的ながらも非常に新しいものを追い求め、作家—ニースヤンによる世界的キャラクター—ムーミン展覧の生地の製作にも取り組んでいる。設立以来、フィンレイソフは質の高い製品を通じて、国内外のひとびとに最高の住まい方を提案し続けています。本展では180年代の日本製や製品をはじめ、1900～2000年代の代表的デザイン、布や原画などの資料から、北欧の暮らしに根差したテキスタイルブランドの歴史とデザインを紐解く
ギャラリーヒルゲート	075(252)1161	京都市中京区寺町通三条上4天性寺前町535	12時～19時(最終日～17時)	会期中無休	洛北の庭より 日下部雅生作品展 ▼10月19日～24日 →「工芸に携わる者のもの作り、生活すること(生きること)と同義でもある」と語る染織作家の型染による、自然の切り口のような洛北の庭で、蹲る足元から考えたこと、感じたことをモチーフにし、形にした作品を展示する
江寿画廊(COJU contemporary art)	075(256)4707	京都市中京区九太町通西町西入4	11時～18時	月曜、祝日休み	天牛差矢子個展—propagareの悪魔— ▼10月2日～30日 →テキスタイルアート
素空間紙をん小西	075(561)1213	京都市東山区紙園花見小路四條下9西側	13時～19時(最終日～17時)	会期中無休	山下茜里個展 ▼10月23日～31日 →キャンペーンを使った織染で、ダイナミックな作品を展開する若手作家の染織作品が、町家空間の中で展示される
KUNST ARZT	090(9697)3786	京都市東山区三条通神宮道北東角2F	12時～19時(最終日～17時)	会期中無休	明石麻里子個展 ▼10月5日～10日 →オーガニック生地を駆使し、染色、加熱変形、縫製といった手法を通した表現は、内臓、皮膚、血脈などをモチーフにしているが、生々しさは遠く、透明感や軽さを内包し、独特の表情と美を有する印象を映し出す。作家は、オブジェやインスタレーションのみならず、ファッション展開も行っている
アサヒビル大崎山崎山荘美術館	075(957)3123	京都府乙訓郡大崎町大崎山崎山荘原5の3	10時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休、11月22日・29日開館)	和巧絶佳展—令和時代の超工芸— ▼9月18日～12月5日 →グローバル時代をむかえ、世の中をとりまくものの均質化が進むなか、日本各地で育まれてきた工芸や手仕事独自の表現を生み出す資源として見直されている。工芸とウジヤンルにとらわれない心と、素材を用い、技法を駆使して工芸美を築く作家の取り組みは、人と物との関係を問い直すとともに、手仕事の可能性の広がりを予感させる。同展では、日本の美意識に根ざした工芸的な作品によって、いま最も注目されている1970年以降に生まれた作家12人を紹介し、これまで受け継がれてきた日本の手仕事の可能性を考える機会を示す。染織では、安達大悟が出品する
gallery サラ	077(532)9020	大津市北比良1043の40	11時～17時	月・火曜休み	YOSHIO JINZENJI 泰泉寺由子展 ▼10月2日～24日 →1968年から12年滞在した北米で制作を始めた独自のスタイル、1991年に設立したバリエウの工房で制作した竹染めの作品や紅花染めの靴、オブジェやアクセサリーなど、長きにわたる制作活動の集大成といえる作品展
アートコートギャラリー	06(6354)5444	大阪市北区天満橋108の50A7F→11F	11時～18時(土曜～17時)	日・月曜休み	福本潮子展 藍の青 2021 ▼9月25日～10月30日 →「古布の魅力の次世代への伝承」をテーマに、意欲的に取り組む古布のクリエイティブな展開を見せる現代染織作家による6年振りの新作個展。麻、藤布、越後上布、対馬麻、オクゾグヅリ、大塚などの古布を素材に制作した藍染作品を出品
カンディハウス大阪	06(6253)6678	大阪府中央区久太郎町4の12大阪御堂筋ビル61F	11時～17時	水曜休み・事前予約制	お気に入りの家具とアートのある暮らし展「Compose」染色 玉井佐知展 ▼10月7日～19日 →型染によるタペストリーなどを展示
高島屋大阪店	06(6631)1101	大阪府中央区難波5の105	10時～20時(最終日～16時)	会期中無休	<7Fランドホール> 第68回日本伝統工芸展大阪展 ▼10月15日～20日 →昭和29年に創設された伝統工芸界最大規模の公展で、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・漆工芸の7部門で構成。人間国宝の作品をはじめ、受賞作、地元在住作家の入选作品などを展示
高島屋史料館	06(6632)9102	大阪府浪速区日本橋3の5の25高島屋東別館3F	10時～17時(入館30分前)	火・水曜、10月28日～11月5日休み	高島屋創業190周年記念展 キモノ★ア・ラ・モード ▼9月11日～12月20日 →高島屋にはかつて「百選会」という呉服催事があった。1913(大正2)年に第1回を開催、戦時中は一時中断しましたが、1994(平成6)年に休止するまでに18回を数えた高島屋の名物催事。百選会には従来とは異なる高島屋が毎回「職造(テマール)」「流行色(テーマカラー)」を設定し、それに基づく「標準図案(デザイン)」を発表。全国の染織業者から新柄呉服を募集し、厳正な審査を経て製品化、販売する会だった。新柄かつ奇抜な百選会の呉服は、毎回大受人気を集め、キモノの流行を生み出すといわれた。「ウルチ・モモタ」(流行の地帯を指し、現代として未来を生きる人々に夢のある美しい生活「ザ・キモノライフ」を提案し続けた百選会の歴史と作品を紹介する
堺市博物館	072(245)6201	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁大仙公園内	9時30分～17時15分(入館45分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	堺動物ものがたり ▼7月17日～10月3日 →江戸時代、天保2年(1831)にはじまった堺織物について、新収蔵資料を中心にあらためて紹介するほか、織機織りの経緯やツグク織造(ヘンドラギ)、チーフアップなど、堺織物からさまざまな種類の動物生産が展開していく過程を追い、堺の動物産業について紹介する
大阪日本民芸館	06(6877)1971	大阪府吹田市千里万博公園1005	10時～17時(入館30分前)	水曜休み(祝日は開館)	型染染 三代澤本寿 ▼9月4日～12月14日 →長野県松本市に生まれた三代澤本寿(1909～2002)は、染織家として数々の優れた作品を手懸るに、長年松本市の民藝運動の普及に尽力した人物である。三代澤は親戚の染物屋を手伝う為に静岡に移り、そこで民藝運動に出会う。同じ頃、染織家・丹沢桂介の作品に触れた三代澤は、これに強い感銘を受け染織家の道を歩み始めた。技法は、図案の考案から染めまでの全工程を一人で作り型染染を用い、屏風やパネル、のれんに着物など実に多様な作品を残した。同展では、150点以上の三代澤作品を展示する
八尾市立歴史民俗資料館	072(941)3601	大阪府八尾市千塚3の180の1	9時～17時(入館30分前)	火曜休み(祝日の場合翌休)	錦絵にみる着物の装いと機織りの風景 ▼8月20日～10月18日 →一編織顔料資料の中から、着物を着た人物や機織りの風景が描かれた錦絵を紹介

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
ギャラリー 猫亀屋	072(425)4883	大阪府泉南郡岬町淡輪4193/2	10時～17時	火・水曜日休み	今泉智加子展／今泉勝彦展 ▼10月2日～10日 →今泉智加子は、紙、芭蕉、ワイヤーなどによるファイバー作品。今泉勝彦は漆喰、針金、絵具で表現した立体造形 ▼10月16日～24日 →蠟燭で制作した染彩作品を展示
兵庫陶芸美術館	079(597)3961	兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4	10時～13時(入館30分前)	月曜日(祝日の場合翌休)	フィンランドデザイン展 ▼9月11日～11月28日 →フィンランドのデザイン会社マリメッコ社のテキスタイルをはじめ、同時代の絵画、アルヴァ・アアルト、カイ・フランクら巨匠たちのガラス工芸や陶磁器、家具など、世界中の人々を魅了し続けるフィンランドデザインの名品を一室に展示
姫路市書写の里・美術工芸館	079(267)0301	兵庫県姫路市書写1223	10時～17時(入館30分前)	月曜日(祝日の場合翌休)	兵庫県工芸美術作家協会姫路展 →県下で活躍する工芸作家「兵庫県工芸美術作家協会」会員の工芸作品(陶芸、染織、ガラス、皮革、漆芸、人形)約50点を展示
奈良国立博物館	0742(22)7771	奈良市登大路町50	9時～18時(金・土・日曜・祝日～20時、入館30分前)	会期中無休	第73回正倉院展 ▼10月26日～11月14日 →正倉院は奈良時代に建立された東大寺の倉庫で、聖武天皇の遺愛の品々を中心とする約9,000件の宝物を今伝える。正倉院展は、これら正倉院宝物の中から毎年60件ほどを選び公開する展覧会で、今年で73回目を迎える。今年も、楽器、調度品、染織品、仏具、文書、経巻など正倉院宝物の全容をつかえるような多彩なジャンルの品々が出展される。染織・服飾品では、開羅法で染じられた豪華の装束も出展されるほか、身や獅子の文様を彩りめやかに描いた麻布彩絵半臂(文様を描いた上着)や火織染め(板締め染め)の袴など、様々な技法で染織された染織品もみどころ。とくに今回初出展となる茶地花術鳳凰文襦袢(文様染めの絹織物)は、その名称のとおり繻織染め(繻を防染剤として使う染色技法)の一種と考えられてきたが、これまでほとんど知られていなかった染色の技法が使われていることが最近明らかになり、当時の染色技術の多彩さをつかむための研究成果として注目を集めている
岡山県立美術館	086(225)4800	岡山市北区天神町8の48	9時～17時(入館30分前)	月曜日(祝日の場合翌休)	岡山の美術館 草間結雄 美しき色彩のコンポジション ▼10月1日～11月3日 →鮮明で美しい色彩を用い、立体的に構築した織作品、細いワイヤーをコイルリングし束ねあわせた作品、小さな丸いフォルムを重ねてピン打した作品など、日本のファイバーアートの第一人者として活躍する草間結雄の50年におよぶ創作活動を振り返る
島根県立石見美術館	0856(31)1860	島根県益田市有明町5の15	10時～18時30分(入館30分前)	火曜日休み	河井寛次郎と島根の民藝 ▼9月11日～11月1日 →島根県安来市出身の陶芸家、河井寛次郎の初期から晩年までの作品を島根県立美術館(松江市)のコレクションからたどる。あわせて河井寛次郎や柳宗悦らが見出した島根の民藝について、石見地域を中心に紹介する
いの町紙の博物館	088(893)0886	高知県吾川郡いの町幸町110の1	9時～17時	月曜日(祝日の場合翌休)	火織染和紙作品展 ▼10月27日～11月14日 →和紙を火織(板締め)で染めて制作した花器、クッション、タペストリー、紙衣帯など約120点を展示
九州国立博物館	092(918)2807	福岡県太宰府市石坂4の7の2	9時30分～17時(入館30分前)	月曜日(祝日の場合翌休)	琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展 手わざー琉球王国の文化ー ▼10月19日～12月12日 →古くからアジアの国々との交流によって栄えた琉球王国。その豊かな文化が育んだ美しい文化財や製作技術は、近代化や戦端で多くのが失われた。この度、失われし「手わざ」を求めて、現代の職人たちが最新の調査研究をもとに8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)にわたる模造復元に取り組んだ。同展では、よみがえった琉球王国の手わざと島の秘密に迫る
熊本国際民藝館	096(338)7504	熊本市北区龍田1の5の2	10時～16時	月曜日(祝日の場合翌休)	外村吉之介の生涯ーその2 海外の民藝ー ▼9月11日～11月30日 →外村吉之介が世界で出会い、収集した民藝の数々を展示し、各国の民衆の生活に根ざした工芸と、外村吉之介が感じた民藝の美しさを紹介する
熊本県伝統工芸館	096(324)4930	熊本市中央区千葉城町30の35	9時～17時	月曜日(祝日の場合翌休)	企画展:熊本県伝統工芸館・熊本国際民藝館交流展 民藝 こちよい暮らし ▼9月14日～11月28日 →熊本国際民藝館は、柳宗悦の「民藝」思想に共鳴した外村吉之介によって昭和40年に設立された。館内には外村が収集した世界各地の民藝品が展示され、九州の民藝運動の拠点となっている。同展では、同館初代館長である外村吉之介が収集したコレクション及び熊本市で長年民藝に携わってきた工芸さくし所蔵品を中心に日本の民藝の品々を紹介する ▼9月28日～10月3日 →一部取り上げ展示の展示会 手作りのこころ展 ▼9月28日～10月3日 →米村弘子・安田西都子によるニット作品展示 心をこめて着物スタイ ▼10月5日～10日 生活の意/のはらで染めもの 野原れい子展 ▼10月19日～24日 アイウェア〜きと恋するニット展〜 ▼10月19日～24日 手仕事の服 製織と更紗 ▼10月27日～31日
那覇市歴史博物館	098(869)5266	那覇市久茂地1の1の1ベレットもじ4F	10時～19時	木曜日休み	三つ巴紋の紅型衣裳／琉球漆器の様々な技法 ▼10月1日～25日 →染色資料は商家資料から『三つ巴紋の紅型衣裳』を紹介 白地の紅型衣裳／朱漆の漆器 ▼10月29日～11月24日